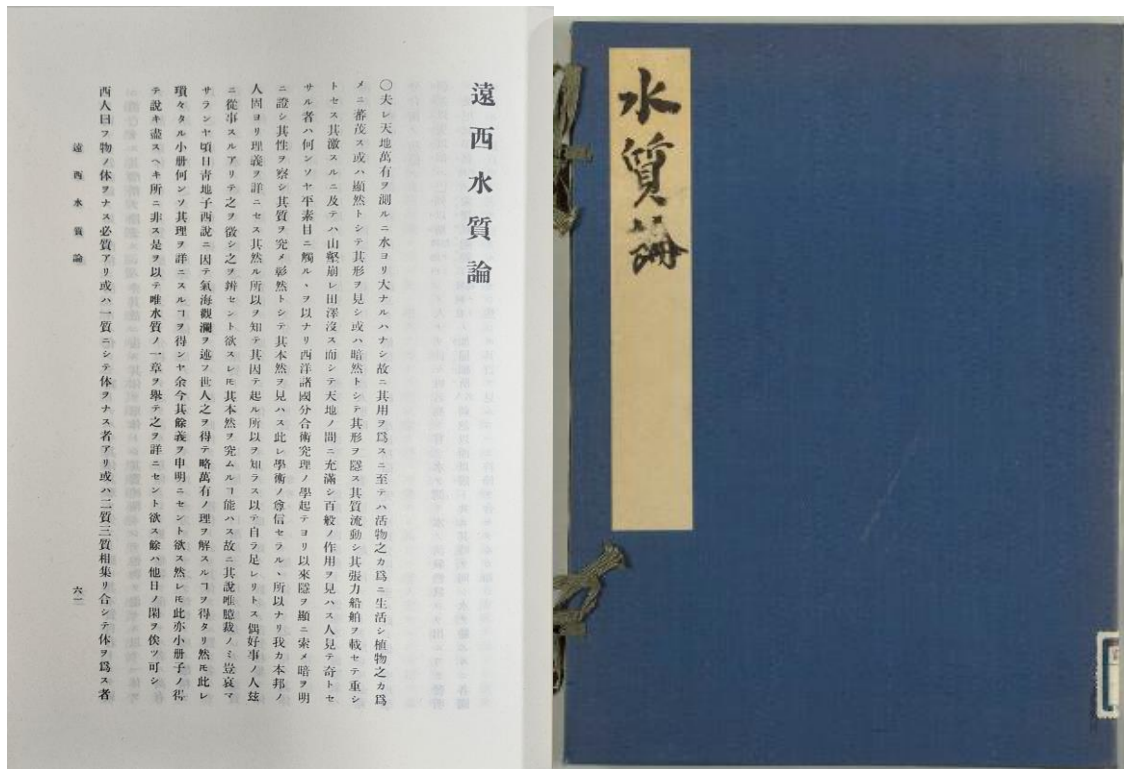


2025 年 9 月の資料紹介



『高野長英全集』第四巻 遠西水質論

京都大学附属図書館所蔵

えんせいすいしつろん
高野長英著 遠西水質論

パリ出身の化学者ラボアジエ（1743～1794）の化学理論を基にして、長英独自の発想によって水を構成する元素について論じた化学書です。

内容は、物体は元素が集まってできると説き、水を分解すると「三原質（元素）となる 1 に曰く火原（カロリー） 2 に曰く酸原（酸素） 3 に曰く水原（水素）是なり」とし、水は「清気（酸素ガス）燃気（水素ガス）より出る」とラボアジエの実験結果を紹介しています。次に「清気（酸素ガス）」の性質について「夫れ清気の性は万物の焼るに当て其炎を出さしめまた物に和（化合）して酸（酸化物）となる是を以て清気を加えて硫黄を焼くときは硫黄酸（二酸化硫黄）生す」と燃焼が酸素と結合して酸化物を生じること、逆に酸化物から酸素ガスを抽出するなどの実験について説明しています。

続いて、酸素が生物にとって欠かすことのできない物質であること、また、物が燃えるのは空気中に酸素があるからだということを例証しています。

長英は、日常生活の中にみられるごく当たり前と考えられ、見過ごされてきた事象について、自然科学的な考察を加え、またいくつかの実験方法を提示しながら、因果の法則によって説明できることを立証しようとした。

【参考文献】・千田 捷熙『夢魂の人』（2007、ぎょうせい）・須川 力『科学者 高野長英』（1990、岩手出版）・『高野長英全集』第四巻（1931、第一書房）

・『水質論』（京都大学附属図書館所蔵）(<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00003626>)